

汎用を使う頻度がかなり減少! REAL4、戦力になります!

山堀建設株式会社(大阪府)



▲山下社長

■現代彫刻の制作に協力。社長は社交ダンスの選手！柔軟で積極果敢な山下社長が選んだREAL4

2011年6月にS/F REAL4を導入された「山堀建設株式会社」を大阪府茨木市に訪ねた。

山堀建設はユニークな会社で、2011年山口県宇部市で開催された国内最大級の野外彫刻国際コンクール「第24回UBEエンジニアレ(現代日本彫刻展)」に国内外から出品された模型363点の中から実物制作20点に選ばれた作品の制作に協力。その素材は鉄で、山下社長は制作の場を提供し、鉄に携わってきた経験から助言も行い、作家の制作を支えた。

その山下社長自身、社交ダンス歴20年のベテランで、忙しい仕事の合間を縫って、乞われて披露に赴いたり指導したりもしている。そのことは今年「鋼構造ジャーナル」で紹介された。

本業の方でも、専門誌「新建築」9月号で鉄骨製作に携わった、尖った三角屋根が教会を、狭い間口と深い奥行きが町屋を連想させるユニークな設計の物件(学習塾)が紹介された。

うちに自動的にやってくれることが増えましたね。スロープや、階をまたぐ梁の入力も便利になった。プレスも、ライナーのときと違って、本体と同じ画面で入力できるようになったのがいい。図面編集機能もいいですね。

REAL4を使い始めて5カ月。楽になったし、ライナーがどんなだったか、もう忘れてしまったなあ」と山下社長は笑う。

■便利な図面編集機能。さらにもっと便利なツールを目指して

これまでライナーでは、図面の修正・変更時に柱や梁の位置が動くと、文字の重なり・寸法線の位置などは、汎用CADで再作図する必要があった。しかし、REAL4では、図面編集機能で、文字や寸法の手動編集が記憶され、データ修正後に再作図した際も、編集した状況が自動的に再現されるようになった。

「図面編集機能はとてもいい。でも、もっと寸法線を自由に入れられるようになるといいですね。もっとツールを増やしてほしい。そうすれば汎用がいらなくなるんだけど」山下社長は今後への期待を込めてエールを送ってくれた。

■使っていないところがあるなら、もっといいところがある

「何が完成形といえるのか。これでいいというのはいないから、難しいところだけれど、REAL4はもっといいシステムになると思う」

介され、2011年はメディアに取り上げられることが偶然重なった。

また、山下社長は、友人が手掛けられた汎用CADフリーソフトの開発に協力したキャリアも持つ。そうした経歴からは好奇心旺盛で柔軟、何事にもポジティブに挑んできた山下社長の姿勢が伝わってくる。

■導入5カ月。REAL4ですでに10物件の実績!

そんな山下社長が今、使ってくださいというのがREAL4だ。

「汎用を使う頻度はライナーのときよりかなり減りましたね。REAL4で今、専用：汎用の割合は8：2ぐらい。物件によってREAL4で100%いけるものもあります」

山下社長がREAL4に関心を持ったのは、昨年の鉄構展でのこと。当時使っていたライナーに不自由は特に感じていなかったそうだが、REAL4のデモを見て「まだ完成は先だろうけれど、いいものができるのなら」と注目。それから2年経ち、そろそろいいのではと今年5月の説明会に参加し、6月に導入へ。

以来、山下社長自身がまず積極的に使い始め、導入5カ月後の11月時点では、REAL4で10物件を手掛け、そのうち7件はすでに完成を迎えていた。

■REAL4を早く自分のものにすることで競争力をつける

「何より自分が楽になりたいし、もっと効率化でき、間違いも減らせ、もっとコストダウン」

ンでできるなら、REAL4を早く自分のものにして競争力をつけたいからね」と山下社長。

「以前ライナーを入れたときに、うちの工場の流れがいい方に変ったんですよ。ライナーは、ただ図面をつくるためではなく、鉄骨をつくるため、トータルなコストダウンを図るために考えられた「貫性のあるいいソフト。REAL4は、その積み重ねから生まれたんだから、さらにもっといいものができると思うんです」

山下社長は、見積もりの段階からREAL4で入力し、3D図面を出力したものをお客様に持参して喜ばれているそうだ。「これまでやっているのかと思うくらいです。成約に結びつきやすいといえるかもしれません」

■REAL4は断然使い易い!

同社では、従来、社外スタッフの斉木一幸さんが他社の汎用CADで図面を書き、図面決定後、それをもとに山下社長がライナーに入力して原寸・単品図を作って工場での製作へ進めていく流れだった。

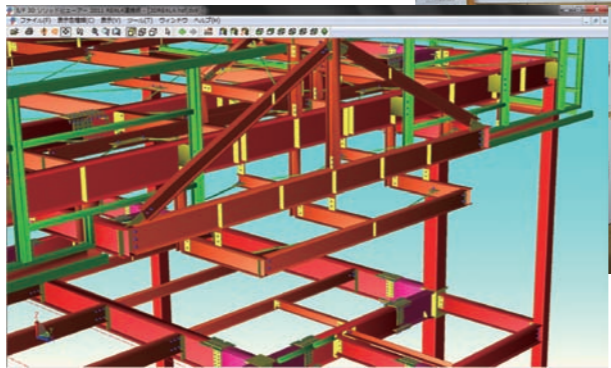
REAL4導入を機に、斉木さんはREAL4



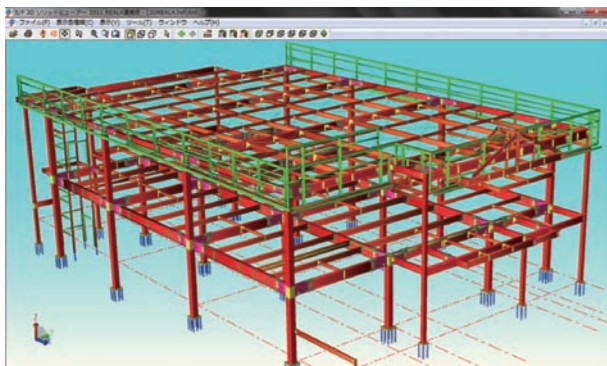
▲斉木さん



▲S/F REAL4で作図・出力した物件の図面を貼り出して取材に協力していただきました



▲ライナーでは難しかった物件もREAL4で対応可能に



ので、完成を急いでほしいですね。これは戦力になる専用CADです。導入して使っていないところがあるなら、もっといい。使えるところだけでも使えば十分早くなる。頑張ってくださいよ!」

山堀建設株式会社

本社:〒566-0001
大阪府摂津市千里丘4-2-33
TEL 06-6380-6499
茨木工場:〒567-0836
大阪府茨木市目垣2-25-23
TEL 072-636-1637
規模 Rグレード
代表取締役 山下博光

◆導入システム◆
〈S/F REAL4〉
TYPE2



▲山下社長は社交ダンスの選手として活躍中

■便利です！継手詳細設定機能

ライナーを使っていた山下社長に、REAL4になって便利な点をうかがった。

「継手詳細設定が簡単でいいね！細かい設定がたくさんできるようになって便利です。大梁、小梁のおさまりとか、気付かない」

REAL4で図面を作成するようになった。そのデータを活用して進められるようになった山下社長は、

「データ入力の時間が丸ごとかからなくなり、それだけでも3割は楽になったんじゃないかな」

それまで他社の汎用を使っていた斉木さんは、

「REAL4は講習を受けず、説明書も読まなくても使い易いですね。分からないことがあると、データロジックの電話サポートに尋ねて教えてもらっています。分かりやすく一生懸命教えてくれるので、とてもいいですね。使ううちにREAL4でできることが分かってくる、動きが読めるようになりました」

同時期にリリースされたものとの比較ではないので言いきれませんが、これまで使ったことのある他社の専用CADと比べると断然使い易いそうだ。